

「研究の基礎」(1年生全員)

担当：岩澤 利哉
岩谷 宣行
神居 恵悟

今年度の展開

平成26年度のふるさと教育「かづの学」開始からの3年間は、1～3年生全員が縦割りで各講座に所属し、指導教員及び生徒間で学びあうことで研究の目的を達成してきた。この形態は、学年を超えた繋がりを持つことができる点が魅力であった。一方で、高等学校へ入学して間もない1年生が、積極的かつ主体的に上級生と共同で活動へ参加することの難しさもあった。以上のことから、かづの学の4年目となる今年度は1年生全員を「研究の基礎」について学ぶ時間とし、次の内容を設定した。

(1) 地域を知る

鹿角地域について知識を有する馬淵大三氏、小田嶋隆一氏の2名を講師に迎え、鹿角を知るための講話を実施した。

馬淵大三氏は、十和田毛馬内の呉服店の代表取締役である一方で、毛馬内こもせ商店街協同組合理事長や毛馬内盆踊保存会・振興会副会長として活躍されている。馬淵氏には次の3回の講話をお願いした。また、鹿角市立立山文庫継承十和田図書館を会場として実施し、図書館には講演にちなんだ図書の紹介をしていただいた。

<講演テーマ>

I 毛馬内盆踊りについて(5月30日)

II 鹿角四姓について(6月6日)

III 鹿角の鉱山と産業について(6月20日)



写真1 十和田図書館での講演の様子①



写真2 十和田図書館での講演の様子②

小田嶋隆一氏は、鹿角市先人顕彰館の館長として活躍されている。東洋史学者として知られる内藤湖南の功績を後世に讃えるべく、関連展示物の充実を図っている。8月22日、小田嶋氏には先人顕彰館の館内説明を兼ねて、内藤湖南や和井内貞行を中心とした「鹿角の偉人」について解説していただいた。



写真3 先人顕彰館での解説の様子

(2) 地域で活動する

1 学期の「地域を知る」活動を経て、2 学期前半は「地域で活動する」と題し、希望に応じて以下の3コースに分かれ活動する。

I 毛馬内盆踊りに参加する 8月21日(月)～23日(水)

国指定の重要無形民俗文化財である「毛馬内の盆踊」への参加をとおして、地域の伝統行事の維持・存続と継承の一端を担う経験をした。

II かつの元気フェスタのスタッフとして活動する 9月17日(日)

かつの元気フェスタは、産業祭と福祉・介護のイベントを合同で開催している鹿角市の一大イベントである。そのボランティアスタッフとして運営に携わることで、イベントとはどのように実施されるのか、どのような仕事があるのかなど、運営側として持つべき視点について経験をとおして理解した。

III 鹿角観光いろはカルタ十和田版題材場所ツアーに参加する 10月7日(土)

鹿角はカルタが盛んな地である。十和田地区には、十和田地域づくり協議会が鹿角の特産物や名所・旧跡、ゆかりの人などを題材として作成されたカルタがある。取り札の絵柄は応募作品から選ばれて作られており、本校在校生の作品も多く存在する。本ツアーは、カルタの句の中から以下の題材地について巡り、郷土について理解を深めることを目的としている。

なお、このツアーは十和田地域づくり協議会主催の「市民の子カラ事業」として実施されるものである。地域の団体が、どのような企画を計画・実施することで、地域住民の「地元の再認識・再発見」や「地域おこし」を狙っているのかを考える。本校生徒は地域の方々と同一行程で巡る。

<カルタ題材場所ツアーのコース>

月山神社－錦木塚－猿賀神社－佐多六とシロの碑－八郎太郎の碑－大湯ストーンサークル－大円寺－佐藤秀果園(リンゴ)－先人顕彰館(内藤湖南)



写真4 毛馬内盆踊りに参加する生徒



写真5 かつの元気フェスタの様子

(3) これからの展開

12月の公開研究発表会では、①講話、②毛馬内盆踊り、③かつの元気フェスタ、④鹿角観光いろはカルタ十和田版題材場所ツアーの4形態に分かれて発表を行う予定である。そのために、体験のまとめやパワーポイントの作成方法について学ぶ予定である。